

## 原口行雄教授の退職記念号の発刊に寄せて

経済学部長 金 栄 緑

原口行雄教授は、本学の前身となる熊本短期大学教養科の講師として1987年着任その後、熊本学園大学に名称変更される1994年、経済学部助教授への配置変えにより、本学部に着任されました。1999年には教授になられ、2016年をもって定年退職されました。その間、経済学部はもちろん、大学全体の英語教育と大学の発展に寄与されてきました、これまでの先生のご貢献にあらためて感謝申し上げる次第です。

原口先生は、1972年熊本大学法文学部（当時）を卒業、民間企業での勤務、1976年からは高校の教諭、1983年九州大学大学院文学研究科修士課程へ進学、1987年本学への赴任の同年博士課程後期を中退されます。その後も教育と研究に専心され、2011年には広島大学大学院文学研究科博士後期課程に進まれ、2015年「The Forms and Syntax of Verbs in the Early Modern English and Late Modern English Periods」の論文で文学博士の学位を授与されました。

原口先生の研究分野は、専門外の私には難解ですが、専門先生からの説明によると、英語学のなかでも、英語史および語法研究という2つの分野にまたがる研究であり、原口先生の研究には、接続詞、動詞、形容詞などの語法について、15世紀から現代にかけての通時的研究が多いことが読み取れます。

原口先生の教育に対する熱意は、研究と同等かそれよりも熱心でありました。語学の力がつくかどうかは練習量に正比例するとの方針を持っておられまして、講義では、毎回の問題練習、1学期数回の小テストの実施など復習できるように工夫、リーディングのクラスでは、和訳よりは内容の理解に重みを置き、考えることと英語の表現の方に着目するような指導など、いわゆる語学の4技能が歌われる随分前から「読む」「聞く」「話す」「書く」力を重視した教育をなされたと思います。このような、原口先生の教育に対する熱意は、今は一般的で当たり前前に実施している英語のレベルに応じたクラス分けテスト実施につながったと思います。経済学部1年次対象の「英語」を受講生のレベル別クラス分けテストは、2004年度から実施されていますが、これは原口先生の企画提案であります。

専門の違いもあって、原口先生の私的な面について語るほどのお付き合いは少ないのですが、大学までの同じバスに乗ったり、私の家の前を自転車で通る際には、日常の話で盛り上がったりと、思い返せば、仕事での付き合いを抜きにした優しいご近所さんのような付き合いであったと思います。いつもヘルメットを被り、スポーティーな恰好で自転車に乗っている原口先生に校内で会えなくなるかと思うとやはり寂しいものです。

原口先生、長い間ありがとうございました。ご退職後はご自分の時間を楽しみながらお過ごしいただければ嬉しく思います。なにとぞご健康に留意されて、更なるご活躍をお祈り申し上げます。